

道づくりの3つの進め方

1 効率的、経済的な事業展開とストック効果^{※9}の最大化

- (1) 選択と集中による事業展開
- (2) 建設～維持管理～更新を踏まえたライフサイクルコストの抑制
- (3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

2 県民の参画と協働

- (1) コミュニケーション（情報共有と合意形成）
- (2) 愛着のある身近な道づくり

3 情報化技術の活用

- (1) 通信技術を利用した情報の収集・発信、一元化による共有
- (2) デジタル技術の有効活用

※9 整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果

1 効率的、経済的な事業展開とストック効果の最大化

限られた財源の中で、重要性、必要性などを踏まえながら、新たな道路の整備と老朽化する道路施設の維持管理を適切に行い、効果的な道路マネジメントを進めます。

(1) 選択と集中による事業展開

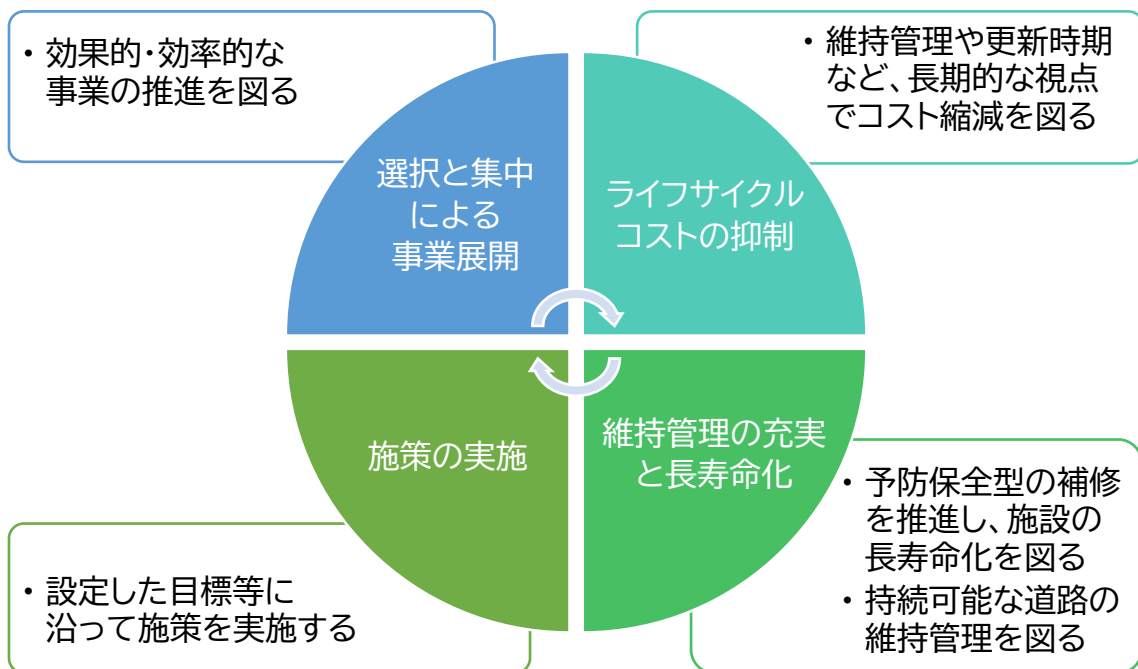
地域の実情を考慮しながら、重要度や必要性を踏まえ、適切な事業評価を行い、効果的・効率的な事業の推進を図ります。

(2) 建設～維持管理～更新を踏まえたライフサイクルコストの抑制

つくる時だけでなく、維持管理や更新を行う時期も含め、長期的な視点でコスト縮減を図り、道路としての機能が最大限発揮できるよう道路施設の運用を図ります。

(3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

老朽化していく道路施設に対して、定期点検の実施や予防保全型の補修を推進するなど、施設の長寿命化を図るとともに、地域住民や民間事業者との合意形成を図りながら、持続可能な道路の維持管理を行います。



2 県民の参画と協働

これからの道づくりは、「つくる」時だけでなく、イベントや憩いの場として「使う」時や、維持管理して「守る」中においても、地域住民や民間事業者等と情報共有や合意形成を図りながら、愛着の持てるよう「育てる」道づくりに向けて、道路管理者だけでなく「オールふくい」による総合的な取組を進めます。

(1) コミュニケーション（情報共有と合意形成）

リーフレットやウェブ等を活用した積極的な情報発信を行うとともに、ワークショップ等による地域との合意形成を図ります。

また、子どもたちへの「道と共に生きる」教育なども取り入れながら、豊かな暮らしを支える道づくりを進めます。

(2) 愛着のある身近な道づくり

地域住民や民間事業者が主体となった花植え活動や環境美化運動等の道守活動や、みどりのスコープひとかき運動等を幅広く展開するとともに、地域が主体となった道路空間を活用したイベントの開催や憩いの場としての利用など、愛着をもって人が集まる賑わいのある道づくりを進めます。

【住民による花植え活動】



一般県道 福井停車場勝見線
城東橋（福井市手寄）

【みどりのスコープひとかき運動】



【イベントによる道路空間利用】



主要地方道 小浜停車場線（小浜市小浜住吉）

3 情報化技術の活用

近年、急速に進展する情報化技術を道づくりに活用し、道路に関する情報の収集・発信、共有化による渋滞対策や交通安全対策、維持管理の高度化・効率化を進めます。

(1) 通信技術を利用した情報の収集・発信、一元化による共有

ICT 等を活用しながら、関係機関と積極的に情報交換し、利用者からの道路に関する異状等の情報を収集、一元化して有益な情報として発信、共有することで、通行の安全性や利便性の向上を図ります。

(2) デジタル技術の有効活用

AI やビッグデータ等の利用により、渋滞や事故の発生により危険のある箇所の的確な把握や画像解析による道路異状箇所の早期発見など、道づくりや維持管理の高度化・効率化を図ります。

また、自動運転車など多様なモビリティの実用化がスムーズにできるよう基盤づくりを進めます。

